



田園空間博物館みやこのじょう 庄内・横市ウォーキングマップ

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平20業複、第314号)



田園空間整備事業で復元した潜水橋

田園空間整備事業で設置した道標

標準歩行時間(休憩含まない)		■距離はマップメーター計測のため、正確ではありませんので目安としてください。
きばれコース		■きばれコースは一周コースで上り坂が短く、少し過酷で楽しいよ。■はげげコースは楽々歩いて滝まで楽しいよ。■ほっけもんコースは上り坂が長く過酷なコースで楽しいよ。■上り坂:I→G区間は急な坂道・階段があるので楽しいよ。
A → B	200m	
B → C	500m	
C → D	1,400m	
D → E	3,100m	
E → F	1,400m	
F → G	2,200m	
G → H	1,300m	
H → I	2,400m	
I → J	1,800m	
J → K	1,000m	
K → A	500m	
計	15,800m	
標準歩行時間 5時間		
はげげコース		
H → G	1,300m	
G → 滝	500m	
往路計	1,800m	
復路計	1,800m	
計	3,600m	
標準歩行時間 1時間10分		
ほっけもんコース		
J → I	1,800m	
I → H	2,400m	
H → G	1,300m	
G → F	2,200m	
往路計	7,700m	
復路計	7,700m	
計	15,400m	
標準歩行時間 5時間10分		

トーチカ(砲台)跡	たのかんさあ(田の神)	母智丘の桜	横市地区遺跡群	泉宮担い手育成基盤整備事業(ほ場整備)
<p>太平洋戦争の激しくなった、昭和18年(1943)本土防衛のために建設されました。</p> <p>昭和19年以降、都城西飛行場を陸軍航空隊が特攻基地として使用することになったため、米軍の空爆が激しくなり、機関砲で応戦していたそうです。</p>	<p>終戦直後、誰かがトーチカの跡に据えられた。「たのかんさあ(田の神)」です。現在まで豊作祈念の神として鎮座され、眼下に広がる水田を見守ってこられました。</p> <p>トーチカ跡に「たのかんさあ」を祀ったのは、戦争という過ちを2度と繰り返してはいけないとの住民の願いかもしれません。</p>	<p>日本さくらの名所100選の母智丘の桜は、ソメイヨシノ、ヤエザクラ、ヤマザクラなど約2700本で、母智丘神社までの約2Kmの桜トンネルは圧巻です。</p> <p>横市ほ場整備幹線農道沿いの遊歩道は、田園空間整備事業で整備され桜が植樹されています。市道母智通線から母智丘までの桜は、圧巻で沢山のウォーキング客で賑わっています。</p>	<p>横市地区遺跡群は平成8年度(1996)から県営担い手育成基盤整備事業で田んぼが区画整理されることになり、それに伴い発掘調査が実施されました。横市遺跡は生産基盤、とくに稲作文化の発生から水田経営まで連なる「米づくり」の歴史を知ることができる、南九州を代表する遺跡として高い評価を受けています。</p> <p>国内最古級(縄文時代)の水田跡や平安時代の居宅跡、鎌倉時代の大規模な館跡、縄文時代から近世までの水田跡などが発見されマスコミで大きく取り上げられました。</p> <p>また鉄剣、鉄鍬、木鍬、石器、土器など縄文時代から近世までの生活用品や農具が沢山出土しています。その中でも「擦り切り孔を有する石包丁」は稲作文化の初期の遺物とされ、国内でも希少な遺物です。ここでは鶴巻、脇穴、今房、馬渡、江内谷、坂元、加治屋遺跡を総称して横市遺跡と呼んでいます。</p> <p>横市地区遺跡群は、加治屋A・B、坂元A・B、馬渡遺跡など24の遺跡を総称した呼び名です。</p>	<p>写真左: 水はけが良くなりジャガイモも収穫できました。</p> <p>写真右: 大型機械での農作業も楽々です。</p> <p>15年前の横市は、小さい面積で形の悪い田んぼで、道路も狭いため、大型機械での農作業ができず、後継者も育ちませんでした。</p> <p>平成5年に横市河川改修にあわせて、ほ場整備工事を実施することになりました。形の悪い田んぼを縦100m、横60mの大きな区画の田んぼに整形しました。また用水路は管水路に改修し、いつでも安心して用水が使えるようにしました。排水路はコンクリートで整備され、道路は直線に配置し道幅も5.0m~7.0mと広くしました。</p> <p>ほ場整備は平成19年度に完了しました。今、横市地区の皆さんは綺麗に整備された田んぼで、大型機械を使う効率の高い農業をされています。また農村集落営農法人も設立され、未来に希望がもてる農村となっています。</p> <p>■田んぼの面積 160ha 事業費 約59億円</p>
加治屋頭首工	桜田門外の変 有村次左衛門寓居地	中世遺構 掘立柱建物跡		
<p>加治屋頭首工は、正徳2年(1712)、島津家が200町歩の新田を開田し、寛政12年(1800)に柴井堰が築造されました。</p> <p>大正14年(1925)年にコンクリート堰に生まれ変わりました。その後、平成5年(1995)8月の大水害で流出し、平成7年(1997)6月、災害復旧事業で現在の頭首工に復旧されました。</p>	<p>桜田門外の変は、万延元年(1860)3月3日、安政の大獄に反感を持った、水戸、薩摩藩の浪士たちが、江戸城桜田門外で老井伊直弼を殺害した事件です。</p> <p>有村次左衛門は薩摩藩から脱藩し一人で参加し、駕籠から井伊を引き出し首を落としましたが、井伊方に切られ、重傷を折ったので切腹しました。</p> <p>有村は幼少のころから、桜田門外の変前年まで、この地で父母ともに暮らしました。</p>	<p>中世遺構 掘立柱建物跡</p>		
<p>※本マップ編集者は、その内容に責任を負いませんので、個人の責任で使用してください。</p>				

関之尾公園

関之尾公園は都都市を代表する公園です。公園には日本滝百選の「関之尾の滝」や国の天然記念物の「関之尾の瀧穴」があります。また公園内にはキャンプ場や散策路が整備され沢山の来訪者で賑わっています。

■関之尾の滝
関之尾の大滝(幅40m、高さ18m)、女滝、男滝の3つの滝があります。大滝は滝百選に選ばれています。女滝、男滝は農業用水路のために先人たちが開削したものです。

■関之尾の滝瀧穴
長さ600m、幅80mにわたる瀧穴群は、世界でも類を見ない規模で国の天然記念物に指定されています。

写真上左より: 関之尾の大滝・関之尾の瀧穴・関之尾の紅葉 下: 用水路伝承広場

田園空間整備事業都城地区

関之尾公園内は、宮崎県を代表する、歴史的に価値の高い用水路が3路線あります。田園空間整備事業では、老朽化した用水路を昔の石積み用水路に復元や公園内の農業用施設を結ぶ散策道の整備、用水路を利用した親水池、広場を整備しました。また各施設のコース道標、案内板を設置しました。

■前田用水路(明治34年(1901)完成/水路の長さ 7,045m 田のかんがい面積 278ha)
前田用水路は郷土の偉人、坂元源兵衛が計画した開田事業を前田正名がなげ強引に受け継ぎ完成させました。しかし完成までの道のりは苦難の連続で坂元源兵衛の優れた農業土木技術力なしでは完成しなかったと言われています。

■北前用水路(明治32年(1889)完成/水路の長さ 5,100m 田のかんがい面積 68ha)
郷土の偉人、坂元源兵衛がノミと斧で岩をくりぬき、苦難すえ完成させた水路です。女滝は落差を利用した取水口で男滝は余分な水を捨てる余水吐です。今、女滝と男滝は、農業用水以外に美しい水の落音が、来訪者に癒しと安らぎを与えています。

■南前用水路(貞享2年(1685)完成/水路の長さ 7,200m 田のかんがい面積 170ha)
前貞享2年(1685)に領主島津久理の命を受けた、家老川上久隆が監督し、関之尾の滝の上流300m右岸の岩山を掘り抜く難工事のすえ、完成したものです。明治19年(1886)に坂元源兵衛が開いた川崎用水路と統合延長され、その後の改修事業により現在の関之尾の滝となりしました。

■石川理紀之助(明治時代の農村指導者、「俺は農民だ。農民が農民を助けないで誰が助けると言うのだ」/秋田県農業の父)
石川理紀之助は前田正名から村づくりが進まないの、無償で指導に来てくれとの身勝手な手紙をもらいました。石川理紀之助は働かない村人に対して、自分で率先して働く姿を見せ指導しました。そのうち一人、二人と一生懸命働く村人が増え明るく豊かな村になりました。また夜学を開校したり預金を推奨したりしました。6ヶ月後の別れの朝、沢山の村人が見送り涙したそうです。今、平成8年、石川理紀之助の功績に対して銅像(山田町谷頭)を建立しています。

美しい田園風景と 遺跡・用水路めぐり 素敵なコースですよ